

girasol

株式会社 girasol 様
ヒラソル



DPCデータを活用した病院向け 経営分析サポートシステムにUSBトークンを採用

- 鍵長2048bitに対応。暗号の2010年問題をクリア
- 米国連邦標準規格であるFIPS140-2 レベル3を取得
- PINの誤入力によるロックをリモート解除可能

導入の経緯

診療報酬の定額制度ともいえる「DPC制度」が導入され、病院経営には治療の中身にまで踏み込んだマネジメントが重要になっている。自院の状況とともに、個々の治療の「相場感」を知るためのツールとして全国の病院に導入が進んでいるのが、経営分析サポートシステム「girasol(ヒラソル)」。

各病院が厚生労働省に提出するDPCデータを集約し、診療パターンや粗利などを、他病院や平均値と比較して、病院経営の適正化と医療の質の向上を図れるシステムだ。



各病院から提供されるDPCデータには症例ごとの手術・投薬のデータなど重要な情報が含まれている。徹底した匿名化により個人情報を取り扱わないよう細心の注意を払っているものの、不正アクセスには特に厳重な対策を行う必要がある。そこで同社が採用したのが、各病院でアクセス権限を持つ人にPentio USB Token 3300を配布するという方法だ。



株式会社girasol(ヒラソル)
代表取締役社長
田中 宏昌 様



株式会社girasol(ヒラソル)
取締役
原田 知世之 様

System

- 【認証USBトークン】
Pentio USB Token 3300
- 【認証システム】
SSL認証
(Web Server認証)
- 【証明書発行システム】
girasol(ヒラソル)自社システム
- 【クライアントOS】
Windows 7, Vista, XP

Profile



株式会社girasol(ヒラソル)

2010年設立。製品名でもあり、社名でもある「girasol(ヒラソル)」はスペイン語でひまわり。いつも太陽の方を向きながら、明るく、親しみやすい会社に成長したいとの思いが込められている。

〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町2-4-5

URL:<http://www.girasol.org/>

この件に関する問い合わせ先は
ペンティオ株式会社 TEL.03-5919-0971

「暗号の2010年問題」にいち早く対応。 セキュリティ強化と使い勝手向上の2つを同時に実現

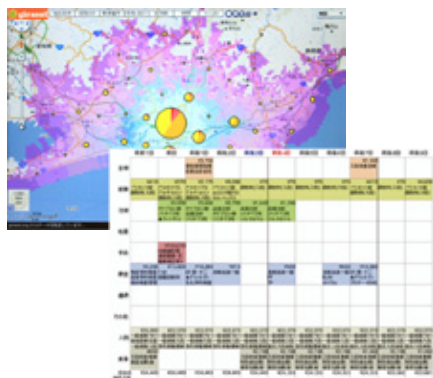
DPC制度導入により、 コスト削減が 医療機関経営の至上命題に

従来の医療機関の診療報酬は、コストを積み重ねて算出する出来高制度だったが、現在、全国の医療機関で順次導入が進んでいるのがDPC制度である。これは症例ごとに定額と出来高を組み合わせる診療報酬を算出する制度。この制度の導入により、医療機関はより費用対効果の高い診療方法や医療サービスを選択することが求められるようになった。

この課題を解決するためのツールとして開発されたのが、同社の経営分析サポートシステム「girasol」だ。

「病院から厚生労働省に毎月送られるデータというのは完全に規格化されており、病院間の比較が容易に可能です。このデータを集めて可視化し、『よその病院と自分の病院を比較したい』『平均値と比較したい』という病院のニーズに応えるため、このシステムを開発しました。このシステムを使えば、ある症例に対する平均的な診療方法に比べて、自分の病院は投薬や注射が多すぎるなどの比較検討が簡単に行えます」(同社代表取締役社長、田中宏昌氏)

各病院は自分のDPCデータを提供するかわりに、girasolに蓄積されている他病院のデータも閲覧できるという仕組みで、現在、全国の約120の医療機関がこのシステムを採用している。



経営にかかわる診療情報から 医療の質の情報まで 貴重な情報をわかりやすく可視化

girasolが優れているのは、収集したデータの「見せ方」である。症例ごとの患者数、診療方法、死亡率などのデータに加え居住エリアごとの患者の分布やジェネリック薬品の使用状況なども細かく表示される。また、各病院の診療状況を平均化し、症例ごとに典型的な診療パターンを表示したり、粗利を比較することで病床の稼働率や手術のあり方を評価することもできる。

「DPC制度導入を機に、自分の病院のあり方を自分たちで変えていきたい、マネジメントや医療の質を向上させたいという病院を応援したいんです。そのために、病院さんからもいろいろと意見を聞きながら、より有益な情報をわかりやすく見せる工夫を続けています」(同社取締役、原田知世氏)

2048bit対応と リモートロック解除機能が 3300選択のポイントに

こうした貴重な情報に対する不正アクセスの防止策として同社が選択したのがUSBトークンによるアクセス制限だ。稼働当初はPentio USB Token 2100と飛天製品の併用だったが、「暗号の2010年問題」への対応を図るべく、Pentio USB Token 3300の導入を決めた。

PKIの暗号アルゴリズムは二つの素数の積の形をした合成数が基本になっている。大きな桁数の合成数を使えば素因数分解が非常に難しいということが、暗号の安全性を担保している。

ところがコンピュータの計算能力は年々向上している。このままのペースでコンピュータの処理能力が向上すれば、2015年頃には現在使用されている1024bitの公開鍵ならば、1年かけて計算すれば解読

できるようになる、と考えられている。この問題に対応するためには、素数の積の合成数の桁数を増やす必要がある。

「従来の鍵長1024bitでは解読される危険性があるとの指摘がある以上、大切なお客さまの情報を扱う企業としては対応を図ることが責務。そこで鍵長2048bitに対応し、FIPS140-2 レベル3を取得している3300を選びました」(田中氏)

2010年問題は最近指摘されはじめたばかりで、ほとんどの企業はまだ具体的な対策をはじめていない。いち早くこの問題に着目した同社のセキュリティに対する意識の高さがうかがえる。

さらにPINを複数回、誤入力した際にかかるロックをリモート操作で解除できる機能が3300についていることも、導入の大きなポイントになったという。

「従来はロックしてしまった場合には、一度デバイスを当社に郵送してもらい、解除してから送り返すという手間がかかりましたが、それがなくなり、病院さんの評判も上々です」(原田氏)

さらに「大きくなって、小さくなった」「USBの差込部分が高製品よりも壊れにくい」などの評価もユーザーから得ており、セキュリティと使い勝手の両方を同時に向上することができたという意味で、十分に満足できる選択だったという。



ペンティオ株式会社

〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-4 久保ビル 3F
Tel. 03-5919-0971 Fax. 03-5919-0980 Email. sales@pentio.com
<http://www.pentio.com/>

©2011 Pentio Co., Ltd. All rights reserved.

●ペンティオ、ペンティオのロゴ、および本文中に記載されている製品名は、日本および他の国におけるペンティオ株式会社の商標または登録商標です。
●本文中に記載されている商品名および社名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
●製品の仕様・デザインは予告なく変更することがあります。ご了承下さい。